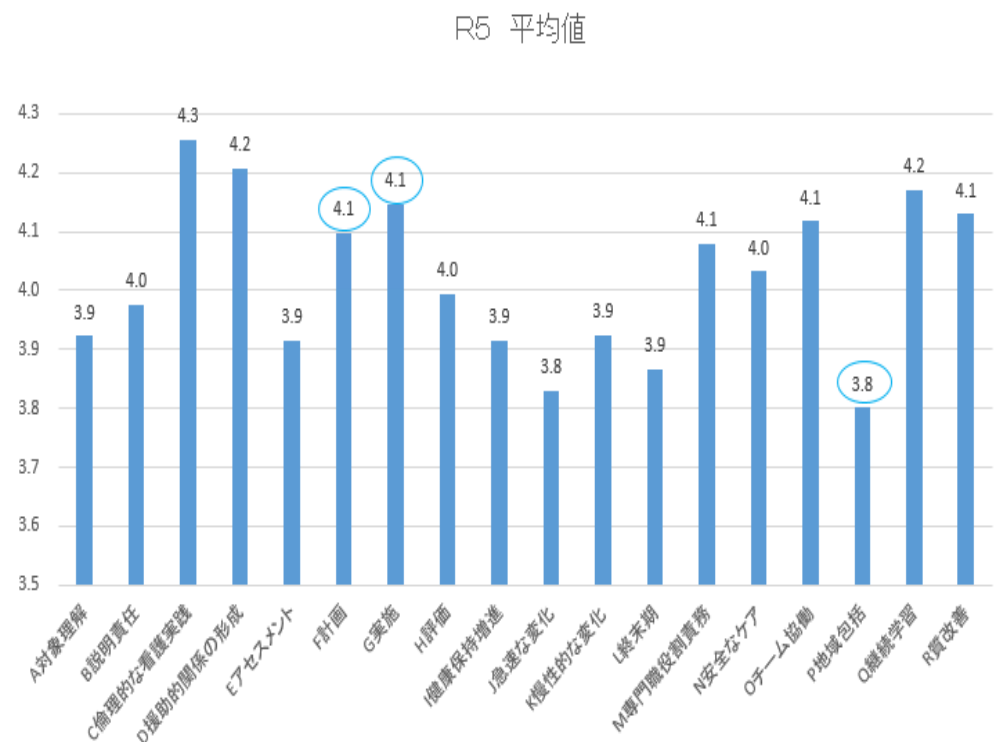


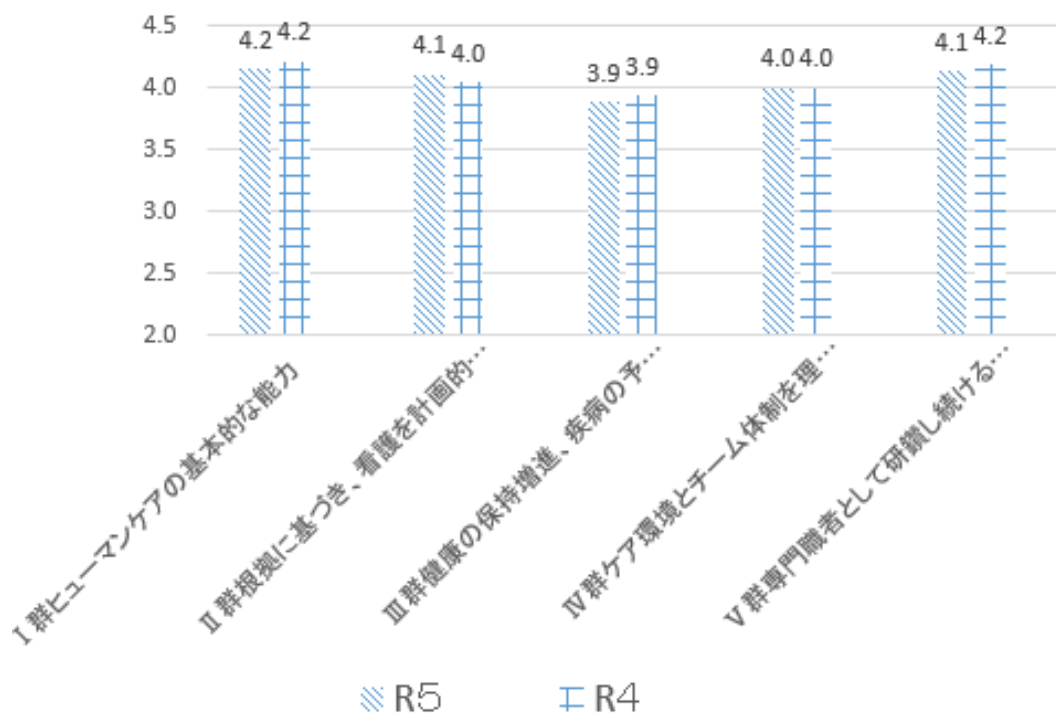
令和5年度「看護実践能力」の育成状況

※看護師に求められる実践能力と卒業時の到達度（看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインより令和2年10月30日版）に基づく結果

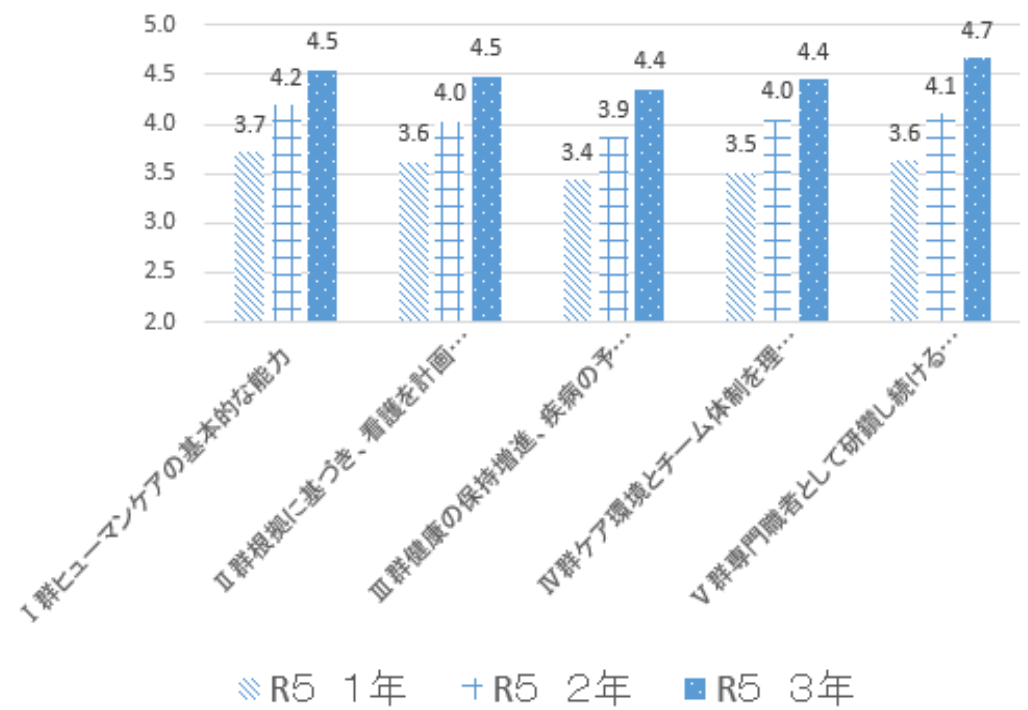
群	構成要素
I 群	A.対象の理解
	B.実施する看護についての説明責任
	C.倫理的な看護実践
	D.援助的関係の形成
II 群	E.アセスメント
	F.計画
	G.実施
	H.評価
III 群	I.健康の保持増進、疾病の予防
	J.急速に健康状態が変化する対象への看護
	K.慢性的な変化にある対象への看護
	L.終末期にある対象への看護
IV 群	M.看護専門職の役割と責務
	N.安全なケア環境の確保
	O.保健・医療・福祉チームにおける多職種との協働
	P.地域包括ケアシステムにおける看護の役割
V 群	Q.継続的な学習
	R.看護の質の改善に向けた活動



R5 看護実践能力 群(カテゴリー) R4との比較



R5 看護実践能力 群(カテゴリー) 学年比較



- ・新カリキュラムの学生は旧カリキュラムの学生より自己評価が低い傾向がある。
- ・群(カテゴリー)ごとに令和4年度と令和5年度を比較すると年度による大きな差は見られない。
- ・どの群(カテゴリー)も、学年の進捗と共に自己評価は高くなっており、昨年度と同じ。
- ・III群「健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復に関わる実践能力」のJ. 急速に健康状態が変化する対象への看護: 全学年の平均値では、昨年度と大差はないが、構成要素5項目中、4項目が平均値3.8以下と低く、新カリキュラムの2年生の自己評価の低さが影響している。
- ・構成要素ごとの平均値は昨年度と傾向は同じ。
- ・学年別の群(カテゴリー)ごとの平均値では、① I から V 群全ての項目において、1年生よりも2年生、2年生よりも3年生と、学年の進捗と共に平均値は高くなっている。
- ② I 群では倫理面・法令遵守・尊厳尊重・意思決定支援、III群では終末期関連や健康課題に向き合う過程支援、合併症予防が学年進捗と共に上位に上がり、平均値も高くなっている。特に、臨地実習での場面の遭遇や実践が影響している可能性が高い。
- GPA値を令和4年度と比較すると3学年共、3.0以上の学生数が減少しているため、自己評価との低さとも関連している可能性がある。
- 学生の日頃の振り返り内容からは、向上心はあり、年次ごとに評価上がっていくため、教員側の評価とあわせて教育内容・方法を検討していく。
- 臨地実習による良い影響・成果は見られるため、学内授業の充実度を上げていくと良い(教材選び、シミュレーション学習・動画教材の活用機会を増やす・自己学習力への支援など)。